



# JACET通信

一般社団法人大学英語教育学会

December 2025 The Japan Association of College English Teachers No.224

## 目 次

卷頭言（佐藤雄大）	1 頁	本部だより（森本俊）	8 頁
第 64 回国際大会報告（山口高領）	4 頁	支部だより	18 頁
第 64 回国際大会		訃報	28 頁
Plenary Lecture 1 (Vibar, Aurelio)	5 頁	編集後記	28 頁
Plenary Lecture 2 (馬場哲生)	6 頁		
Plenary Lecture 3 (Low, Ee Ling)	6 頁		
Convention Symposium	7 頁		
(馬場哲生・矢部隆宜・上田倫史・馬場千秋)			

## [卷頭言]

### 新しい体制の紹介と今後の抱負について

一般社団法人大学英語教育学会会長 佐藤 雄大  
名古屋外国語大学

皆さま、こんにちは。平素より本学会の諸活動に対し、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。2025年6月に一般社団法人大学英語教育学会（JACET）の会長職を拝命いたしました佐藤雄大（名古屋外国語大学）です。新しい体制が発足してから約4か月が経過しておりますが、引き続き全力で職務をまとう所存

ですので、ご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

この巻頭言では、新しいJACETの役員体制・運営委員会をご紹介し、あわせてこれから抱負について書かせていただきたいと思います。

## 1. 退任役員と新役員体制・運営委員会

はじめに2025年6月15日をもって任期を終えられた役員（理事・監事）の方々について報告させていただきます。退任された役員は、小田眞幸理事（代表理事・会長）、門田修平理事（関西支部長）、原 隆幸理事（九州・沖縄支部長）、および今井隆夫監事の4名でした。先生方の長年にわたるご尽力とご貢献に、心より感謝申し上げます。

また同日発足した新しい役員体制は以下の通りです。

### 【会長・副会長】

佐藤雄大理事（会長）

馬場千秋理事（副会長）

上田倫史理事（副会長）

渡辺敦子理事（副会長）

### 【支部長】

松本広幸理事（北海道支部長）

Timothy Phelan理事（東北支部長）

鈴木彩子理事（関東支部長）

藤原康弘理事（中部支部長）

石川慎一郎理事（関西支部長）

山川健一理事（中国・四国支部長）

細川博文理事（九州・沖縄支部長）

### 【会長指名理事】

岩中貴裕理事

鎌倉義士理事

金丸敏幸理事

河野 圏理事

Adrian Leis理事

下山幸成理事

山口高領理事

### 【監事】

浅川和也監事

駒田誠監事

体制となっています。

### 法人事業委員会

総務・『JACET通信』・財務：森本 俊委員長

### 第1号事業委員会

国際大会・セミナー・JAAL in JACET：金丸敏幸委員長

### 第2号・第3号事業委員会

紀要・Selected Papers：Adrian Leis委員長／褒賞：森本 俊委員長

### 第4号・第5号事業委員会

学術交流・研究促進：鎌倉義士委員長

この新しい役員体制と運営委員会で引き続きいろいろな課題に取り組みながら、学会として研究・教育の交流・促進に努めてまいりたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

## 2. 第5次実態調査特別委員会

現在特別委員会の「第5次実態調査特別委員会」（担当理事：佐藤雄大・金丸敏幸、委員長：山中 司）が実態調査活動を進めています。本特別委員会は、今夏の国際大会開会式において実態調査活動の概要を報告し、皆さまに調査へのご協力をお願いいたします。JACETが今まで実施してきました4回の実態調査同様、今回の実態調査も大きく変化している大学英語教育を取り巻く環境の実態を把握し、今後の言語教育を考えるために必須の調査であり、極めて重要な調査だと確信しております。またこのような全国規模の調査を実施し、得られたデータを共有することも、学会として大切な取り組みであるとも考えております。詳しくは下記QRコード先に実態調査の概要とアンケートフォームがありますので何卒ご協力よろしくお願ひいたします。

運営委員会の構成は今までを引き継ぎつつ下記の

### 【JACET第5次実態調査アンケートQRコード】



### 3. JACETの理念とこれからの抱負

JACETは1962年の創立以来、60年を超える歩みの中で、高等教育機関の英語教育に携わる教育者を中心には、言語教育の理論と実践の両面から研究を進めてまいりました。

本学会の綱領(2001年策定)には、「英語教育および関連分野の理論と実践に関する研究」と「大学英語教育、ひいては日本の外国語教育の改革」を主要な目的とすることが示されています。英語を中心としながらも、グローバル化が進む現代において、英語以外の外国語教育や言語教育そのもののあり方を広い視野から考察することを重視していると言えます。

私はこの理念を踏まえ、今後の活動を以下の三つの柱に基づいてJACETの活性化を目指したいと考えています。

#### 3.1 応用言語学の推進

JACETは国際応用言語学会(AILA)の一員として、日本応用言語学会(JAAL in JACET)を組織し、理論と実践の架橋を目指しています。英語教育をさらに深化させるため、他の外国語教育や関連分野との協働を強化し、教育研究の発展を促していきます。こうしたことを踏まえて、今年度開催の「第8回 JAAL in JACET(日本応用言語学会)学術交流集会 2025」

(立命館大学 大阪・いばらきキャンパス)から、内容・日程をより充実させ、多くの言語学関係者の学術交流の場としていきたいと考えています。あわせて本年度の国際大会ではJAAL in JACET HoursとしてJAAL in JACET枠を新設しましたが、来年度の国

際大会ではさらにJAAL in JACETを大きくフィーチャーしたいと考えていますので、ご期待下さい。

#### 3.2 多彩な教育実践の交流

JACETには、大学・短期大学・専門学校など多様な教育機関で教育に携わる会員の皆さまが所属しています。本部および全国七支部で行われる研究発表や実践報告は、異なる教育現場をつなぐ貴重な実践交流の機会になっています。今まで国際大会、JAAL in JACET、セミナーにおいてJACETは実践報告を含めて教育実践の交流を図ってきましたが、新しく高等教育現場で言語教育にあたる院生を含めた方々を対象としたセミナーも開催し、将来的にはJACET認定証の発行もすることができる実践支援を行っていきたいと考えています。

#### 3.3 学術交流の多様性と包摂性

グローバル化の進む現代社会において、教育現場はますます多様化しています。そうした社会において言語教育は、異なる背景を持つ学習者や教育者をつなぐ「橋渡し」(CEFR的なMediator)としての役割を担っています。長年JACETの諸活動に関わる中でこうした多彩な言語教育関係者が集うことが学会の豊かさであり、何かあったときにお互いを支え合うことができる強みであるとも感じてきました。今後も、こうした包摂性を重視した研究・実践を推進し、学術交流と教育環境の充実を図っていきたいと考えております。

以上新しい役員・運営委員会体制を紹介させていただき、JACETの理念に基づいた抱負を述べさせていただきました。抱負で直接触れることができませんでしたが、国際的な学術交流事業、紀要・Selected Papersを中心とした出版事業など多くの学術交流活動も引き続き発展させていきたいと考えております。こうした多岐にわたる学会活動は、各支部の活動や

一人ひとりの会員の皆さまのご協力あってはじめて可能になるものです。最後となりますがあらためて皆さまのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 第64回国際大会報告

開催校統括担当

山口高領 (秀明大学)

2025年8月下旬に、第64回国際大会が盛況のうちに閉幕いたしました。また、今回は、その直前に、第51回サマーセミナーも開催されました。どちらも、早稲田大学早稲田キャンパスで行われ、私は開催校統括の役目を果たしました。私は、6月まで関東支部の支部長を務めていた関係で、新支部長の鈴木彩子先生(玉川大学)と共に、開催校統括として、会場運営全般を担当いたしました。会場校での様々な手続きは、早稲田大学の森田彰先生、浅利庸子先生にご担当いただきました。

昨年度から、国際大会の開催方法がブロック制となっています。ブロック制とは、西日本と東日本の各ブロックが隔年で大会を担当し、本部と協働して運営する方式です。昨年度は、西日本ブロックでの開催でしたが、本年度は、初めての東日本ブロックでの開催となりました。北海道支部・東北支部の先生方からのご協力に感謝申し上げます。特に、北海道支部の高橋博先生(藤女子大学)は、本年度もスタンプラリーを円滑に進めてくださいました。

国際大会は、多くの先生方のご協力で成り立っています。海外を含めた講演者の決定、一般発表の申込みがあり、その後の採否の連絡、プログラムの作成など、本部やセミナー委員会の先生方のご尽力のおかげで、サマーセミナーと国際大会の当日を迎えました。理事の先生以外では、プログラムの作成をしてくださった吉田諭史先生(近畿大学)と中西のりこ先生(神戸学院大学)、海外からの招待講演者とのやりとりでは、萱忠義先生(学習院女子大学)、サマーセミナーでは、関西支部の村上裕美先生(関西外国语大学短期大学部)のご尽力に深く感謝申し上げます。

以下では、私が7月以降に会場運営に関して担当した内容をご報告いたします。

会場準備は、昨年度の開催校ご担当である鎌倉義士先生（愛知大学）のご助言により、円滑に開始することができました。学生アルバイトの募集・配置、スタッフの先生方への昼食手配など、私は、会場準備の一部を担当しました。1ヶ月前にはアルバイト募集を始めましたが、当初申込みが少なかったため、多くの先生方に呼びかけて頂いた結果、36名のアルバイトにお願いすることができました。8月25日には、サマーセミナーの前日準備、26日にはセミナーの当日と大会の前日準備の同時並行、8月27日からの3日間は大会本番となり、学生アルバイトの皆さんにご協力いただきました。今年度は、それぞれの一般発表には、司会を設けませんでした。そのことも含め、アルバイト学生からは、特に大きな問題の報告はありませんでした。

会場設営にあたっては、私が開催校統括担当でありながら、多くの先生にお手伝いいただきました。特に、黒嶋智美先生（玉川大学）には、賛助会員の配達物の受取・設置で大変お世話になりました。

大会初日の開会式では、アルバイトを含めたすべてのスタッフが気持ちよく運営できるよう、参加者のみなさまに、ご協力のお願いをお伝えしました。ここでは、JACETが2024年8月に定めた「JACETにおけるアンチハラスメント・ポリシー」が関わっています。幸い、本国際大会では、このような問題は報告されませんでした。

大会期間中には、コロナ禍以降初めてとなる懇親会も開催されたことも大きな喜びでした。小池生夫先生をはじめ、森田彰先生、海外基調講演者の先生方から挨拶を頂き、和やかな雰囲気で懇親会を終えました。

なお、JACET副会長の上田倫史先生（駒澤大学）による「第64回国際大会を終えて」（2025年8月末発行のJACET通信223号(<https://www.jacet.org/newsletter/JACET223.pdf>)）にて、今回の国際大会の概要を既にお知らせしております。また、関東支部の先生方への感謝の言葉は、2025年9月末発行のJACET-Kanto Newsletter No.25(<https://jacet-kanto.org/newsletter/JACET-Kanto-Newsletter-No.25.pdf>)にて記させていただきました。

Kanto\_Newsletter\_No.25.pdf)にて記させていただきました。

改めて、第64回国際大会に関わってくださったすべての会員のみなさまにお礼を申し上げます。今回の経験と反省を次回の国際大会に活かし、より良い運営を目指してまいります。

### Plenary Lecture 1

Vibar, Aurelio

(U. of the Philippines Cebu)

**Bridging Classroom and Teacher Communities: Exploring the Dual Impact of Hybrid and Face-to-Face Service Learning on Students' and Local Teachers' Action Research Skills**

Globally, teachers face significant challenges in developing research skills, often citing lack of time, support, and practical experience as impediments. Specialized in-service training in research skills is ideal, but it is not cost-effective. This paper presents four cases of service learning (SL) in which the Master of Education-English as a Second Language students volunteered to coach the public school teachers in planning, conducting, and publishing their research. The course, Supervision of Bilingual Education, aims to develop the supervision and coaching skills of graduate students. These cases were conducted from 2021 to 2025. Using the IPARD Model, the projects employed the following stages: In the Investigation and Planning Stages, my students and I conducted a Needs assessment among local teachers who required coaching in conducting action research. In the Action Stage, we conducted face-to-face and online coaching sessions for at least 20 hours per teacher. During the Demonstration Stage, many teachers submitted their research proposals to their respective institutions, and

some were accepted for publication. In the Reflection Stage, we conducted interviews and focus group discussions to gather insights into the experiences of teachers and students. The students claimed that the SL developed course content, personal growth, and public service. Meanwhile, the teachers stated that the project developed their research skills and confidence in publication. The findings highlighted the importance of service learning as a transformative teaching methodology to promote course content and volunteerism.

「The 64<sup>th</sup> JACET International Convention Handbook の要旨を転載」

**Plenary Lecture 2**  
**馬場 哲生**  
**(東京学芸大学)**

日本の英語教育における指導と評価:課題と今後の方  
向性

本講演では、戦後の学習指導要領と評価システムの歴史的変遷を踏まえた上で、現行制度の特質と課題を整理し、次世代の指導及び評価の在り方への示唆を提示する。

戦後日本の学校教育における英語指導は、小・中・高等学校の学習指導要領が改訂されるたびに大きな影響を受けてきた。また、学習指導要領改訂に伴う評価システムの改革及び指導要録の改訂によって、学習評価の方法も変遷を遂げてきた。

日本の英語教育界は、第二言語習得研究や外国語教育研究の成果を取り入れていくという地道な営みを続ける一方で、学習指導要領や評価システムが改訂されるたびに、対症療法的な現場対応を強いられてきた。そして、学習指導要領に基づく指導を受けた学習者たちを大学で受け入れて指導することとなるので、大学

でも小・中・高等学校の教育の内容と方法の変化と連動した現場対応を求められることになる。外国語（英語）においては、2020年度時点の小学校3年生が現行学習指導要領に基づく学びの起点となるので、その生徒たちが現役で大学に入学するのは2030年度である。

こうしたナショナル・カリキュラムの改訂に伴う事後的対応は必須であるが、それにとどまらず、ナショナル・カリキュラム自体の適切さ・妥当性を検討・検証し、問題点を洗い出し、解決策を示すことも大学人の重要なミッションであろう。本講演では、現行制度の課題を洗い出し、次世代のナショナル・カリキュラムの構築に向けての検討を行う。

「The 64<sup>th</sup> JACET International Convention Handbook の要旨を転載」

**Plenary Lecture 3**  
**Low, Ee Ling**  
**(Nanyang Technological U.)**

**Enhancing EIL Pronunciation Teacher Capabilities for a New Era**

The new era has been dramatically changed by artificial intelligence (AI), which is revolutionising various sectors, particularly through large language models (LLMs). AI's impact on language teacher education has been equally profound and far-reaching. This presentation offers an overview of how language education and teacher capabilities, particularly in EIL pronunciation, have the potential to leverage AI's resources to provide unprecedented experiences of personalised learning for individual and group needs. These opportunities include adaptive learning systems, text-to-speech affordances, collaborative learning across time zones and geographical locations, automated grading, virtual

tutoring, and inclusive accessibility tools such as immediate closed captions. While the advantages of AI are evident and exciting, the challenges and concerns AI poses are less frequently discussed. Ethical considerations include data privacy issues and the responsible use of AI models to maintain respect and inclusivity for diverse learners. This also extends to the need to teach EL communications skills for linguistic diversity, equity and inclusion. Another concern is how dominant languages, such as English, used in LLMs may contribute to the extinction, rather than the sustainability, of other languages and varieties. This keynote will explore potential ethical applications of AI in language and teacher education, and address the importance of equitable access to AI. Using Singapore as a case study, this keynote will examine how language teacher education needs to strike a balance between addressing the issues and challenges of EIL pronunciation teaching, and empowering language teachers and teacher educators through underlying frameworks that enable educators and learners. The keynote introduces a new theoretical framework known as the Cline of Glocality. In tandem with the implications of Gardner's (2008) Five Minds for the future for EIL pronunciation teaching, the keynote postulates the necessity of two additional minds and eight effective habits of the EIL pronunciation teacher to navigate this new era.

「The 64<sup>th</sup> JACET International

Convention Handbook の要旨を転載」

**Convention Symposium**  
馬場哲生 (東京学芸大学)  
矢部隆宜 (目白研心中学・高等学校)  
上田倫史 (駒澤大学)  
馬場千秋 (帝京科学大学)

### 大学における英語教育を考える：現在そして未来

2018 (平成 30) 年に改訂された学習指導要領下で 3 年間学んできた学生が今年度、入学してきた。大学入試においては、各大学は現行の学習指導要領に合わせた対応を既に行っている。その一方で、総合型選抜や学校選抜型などの年内入試で入学する大学を決定する傾向も出てきている。その場合、面接や小論文等のみで、英語の試験を受けずに大学に入学してくる学生も少なからずいることは否定できない。

本シンポジウムでは、現行の学習指導要領における英語科目の変更点を改めて確認するとともに、特に中等教育（中学校、高等学校）において、生徒がどのような英語教育を受け、大学に送り出されるのかについて、現状把握を行う。それらを踏まえて、受け入れ側の大学では、どのように学生が変化しているのか、改訂された学習指導要領下で学んだ学生は今までと異なるのか、あるいは全く変化はないのか、逆に、年内入試で英語の試験を受験することによる弊害は出ているのかどうか、高大接続と大学の英語教育の実情を概観する。特に、一般入試での入学者の多い大学での一般教養科目としての英語科目の現状、年内入試での入学者が大半を占める大学での教員養成課程の現状についての実情について理解を深める。そして、今後の大学英語教育をどのようにしていくべきか、その方向性について議論を行う。

「The 64<sup>th</sup> JACET International

Convention Handbook の要旨を転載」

本部だより  
代表幹事 森本俊（玉川大学）

いつも JACET の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

本部からは、国際大会期間中に開催いたしました会員総会議事録、および 2025 年度の事業報告書、収支計算書、財産目録、監事監査報告書をお届けいたします。

<2025 年度 一般社団法人大学英語教育学会  
会員総会報告>

2025 年度 一般社団法人大学英語教育学会  
会員総会議事録

日時：2025 年 8 月 28 日（木）

13 時 10 分～13 時 40 分

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 11 号館 501  
教室

司会：森本俊（代表幹事）

書記：関谷弘毅（副代表幹事）

出席会員数：24 名

次 第：

I. 開会宣言

司会の森本俊代表幹事より、会員総会の開会が宣言された。

II. 会長挨拶

佐藤雄大会長より挨拶があった。第 5 次実態調査への協力の依頼があった。また、JAAL in JACET の取り組みを強化する必要があると言及された。

III. 報告事項

1. 総務関係

馬場千秋法人事業委員会担当理事より、2025 年度会員

状況報告、2024 年度活動報告、2025 年度活動計画、アンチハラスマントポリシーに関する説明があった。また、2025 年 3 月 31 日（2024 年度末）に、「感謝状贈呈ガイドライン」により、JACET に貢献された以下の方に感謝状が送付されたとの報告があった。（敬称略）

笹島 茂 先生

田地野 彰 先生

高橋 潔 先生

上野 之江 先生

梅咲 敦子 先生

計 5 名

2. 財務関係

下山幸成法人事業委員会担当理事より、2024 年度決算報告、2025 年度予算に関する報告があった。

3. 2025 年度人事

馬場千秋法人事業委員会担当理事より、資料に基づき、2025 年度人事に関する説明があった。

4. 各委員会よりご案内

○法人事業委員会

・『JACET 通信』担当

報告事項なし。

○第 1 号事業委員会

・国際大会担当

上田第 1 号事業委員会担当理事より、第 64 回 JACET 国際大会が予定通り開催されていることが報告された。

・セミナー担当

上田第 1 号事業委員会担当理事より、2 年ごとの開催であることが確認された。

・JAAL in JACET 担当

上田第 1 号事業委員会担当理事より、12 月に立命館大学大阪いばらきキャンパスで開催予定であるとの報告があった。

## ○第2号事業委員会

・紀要担当

報告事項なし。

・Selected Papers 担当

河野第2号事業委員会担当理事よりスケジュールの報告とともに、応募の呼びかけがあった。

## ○第3号事業委員会

馬場千秋第3号事業委員会担当理事より、JACET 褒賞の推薦の依頼があった。

## ○第4号事業委員会

渡辺第4号事業委員会担当理事より、7つの提携学会の代表者より第64回 JACET 国際大会への出席があつたことが報告された。

## ○第5号事業委員会

報告事項なし。

## ○第5次実態調査特別委員会

金丸第5次実態調査特別委員会担当理事より、調査の周知及び協力の依頼があつた。

## IV. 閉会

以上をもって、一般社団法人大学英語教育学会会員総会の議事を終了したので、司会は閉会を宣言した。  
以上

## 2024（令和6）年度事業状況報告書

定款第5条第1項の（1）から（6）に掲げる令和6（2024）年度の事業計画実施概要の報告は下記の通りです。

## 記

### 第1号事業報告：大会セミナー等事業

#### （1）国際大会・セミナーの開催

① JACET 第63回国際大会（名古屋、2024）の開催

大会テーマを「高等教育における英語教育の立ち位置を考える」とし、2024年8月28日（水）～30日（金）に愛知大学名古屋キャンパスで開催した。Heath Rose先生(The University of Oxford)、Joo Kyung Park先生(Honam University)の基調講演が行われた。馬場哲生先生(東京学芸大学)による基調講演は台風の影響により第64回国際大会に振替となった。また、本部企画の全体シンポジウムも中止となった。参加者は498名であった。台風の影響により、8月28日の午前プログラムと開会式、授賞式を中止し、午後からスケジュール通り開催した。8月29日は全日スケジュール通り開催し、懇親会は中止した。8月30日は全日中止とした。中止となった発表等は、12月に開催されたJAAL in JACET に振替を行った。

#### ② JACET 第12回英語教育セミナー（大阪、2024）の開催

2025年3月22日（土）に「英語教育の未来を考える：初等教育・中等教育教員養成・生成AI活用の視点から」をテーマに、関西外国語大学中宮キャンパスで開催した。初等教育について正頭正和先生（立命館小学校）、中等教育教員養成について臼倉美里先生（東京学芸大学）、生成AIについて金丸敏幸先生（京都大学）を講師に迎えて行われた。ポスター発表は7件、賛助会員展示は13件であった。参加者は97名であった。

#### ③ 大学英語教育学会(JACET) 第7回 JAAL in JACET (日本応用言語学会) 学術交流集会（京都、2024）の開催

2024年12月7日（土）に立命館大学衣笠キャンパスにて開催した。講演者としてPaul K Matsuda先生（アリゾナ州立大学教授）をお招きした。一般公募による研究発表32件、シンポジウム2件、ワークショップ1件、国内招待講演1件、SIGポスター発表5件、賛助会員と一般会員の情報交換会が行われた。発表者

は『Proceedings Vol. 7』(オンライン)に投稿してその成果を公開する機会を与えられた。また、この研究集会で披露された研究成果や知見が各研究者の研究活動に大きな道標となると同時に、広く普及させることで、会員をはじめ応用言語学研究者がより専門性の高い教育研究を行う成果が期待されている。

### (2) 支部大会の開催

以下の各支部において支部大会を開催した。大会内容については、各支部ニュースレターで報告された。

- ・北海道支部大会 2024年7月6日 (北星学園大学)
  - ・東北支部大会 2024年6月15日 (TKP 仙台西口ビジネスセンター)
  - ・関東支部大会 2024年7月6日 (青山学院大学青山キャンパス)
  - ・中部支部英語教育セミナー 2024年6月10日 (オンライン開催)
  - ・関西支部大会 2025年3月1日 (近畿大学東大阪キャンパス)
  - ・中国・四国支部大会 2024年6月8日 (山口県立大学)
- 2024年10月19日 (愛媛大学城北キャンパス)
- ・九州・沖縄支部大会 2024年9月28日 (西南コミュニティーセンター)

### (3) 支部講演会の開催

以下の各支部において講演会を開催した。

- ・関東支部講演会 2024年6月22日、10月5日 (ともにオンライン開催)
  - ・関西支部講演会 2024年6月15日 (大阪公立大学I-site なんば)
- 2024年10月19日、2月22日 (ともにオンライン開催)
- ・九州・沖縄支部講演会 2024年5月25日 (西南コミュニティーセンター)

### (4) 支部研究会等の開催

以下の各支部において研究会等を開催した。

- ・北海道支部研究会 2024年11月9日 (札幌大学) 2025年3月8日 (北海学園大学)
- ・東北支部例会 2024年11月16日 (TKP 仙台西口ビジネスセンター)
- ・関東支部企画 2024年11月16日 (中央大学茗荷谷キャンパスとZoomのハイブリッド開催)
- ・中部支部研究会・講演会 2024年12月1日 (愛知大学と Microsoft Teams による同時配信)
- ・中部支部研究会 2025年3月1日 (南山大学と Zoom のハイブリッド開催)

### 第2号事業報告：出版物刊行事業

#### (1) 『紀要』の刊行

2025年2月28日に『JACET Journal』69号を刊行した。会員より応募された論文、リサーチ・ノート、及びブックレビューの3つの分野における論文を厳正に審査し、招待論文1本、会員からの一般論文6本が掲載された。会員及び英語教育関係機関(国立国会図書館、大学基準協会、コンピュータ利用協議会、全国語学教育協会、海外提携学会等)へ送付し、日本の英語教育研究の最新情報を発信した。

#### (2) 『Selected Papers』の発行

2025年3月に『JACET International Convention Selected Papers』11号を刊行した。JACET 第63回国際大会(名古屋、2024)で口頭発表(一般ポスター発表も含む)した発表者の学術研究を奨励し、論文発表の機会を与えるため、また海外の学会や英語教育関係者に日本の研究をリアルタイムで発信するため、電子ジャーナル(オンライン)として発行した。招待論文1本、一般応募論文4本が掲載された。

### (3) 『JAAL in JACET Proceedings』の刊行

2025年3月31日に『JAAL in JACET Proceedings』7号が電子ジャーナルとして刊行された。「第7回 JAAL in JACET (日本応用言語学会) 学術交流集会 (京都、2024)」で口頭発表 (ポスターも含む) した発表者の学術研究を奨励し、論文発表の機会を与えたものである。JAAL in JACET Proceedingsへの掲載は、学術交流集会発表者にとってより大きな業績となるだけでなく、研究者同士の情報交換や議論の場として更なる研究の活性化を促進した。また、海外に対し、日本の英語教育研究に関する最新事情を発信した。

### (4) 『英語教材の最前線』の刊行

2024年8月23日にひつじ書房より JACET 応用言語学研究シリーズ第2巻として『英語教材の最前線』を刊行した。2019年度開催の第2回ジョイントセミナー (第46回サマーセミナー&第7回英語教育セミナー)、2020年度開催の第3回ジョイントセミナー (第47回サマーセミナー&第8回英語教育セミナー)、および2021年度開催の第9回英語教育セミナーの基調講演者が講演の内容を執筆し、書籍として刊行したものである。一般書籍として刊行することで、JACET 英語教育セミナーの内容を国内で発信した。また、研究者同士の情報交換や議論の場として、さらなる研究の活性化を促進することができた。

### (5) 支部紀要の発行

各支部で紀要を発行し、会員及び英語教育関係者等に送付 (または公開) した。支部紀要是、支部会員の学術研究を奨励して論文発表の機会を与えるとともに、支部会員に研究・教育実践を学び合う機会を与え、支部全体を活性化した。

- ・『北海道支部紀要』21号 (PDF)

2025年3月25日

- ・『TOHOKU TEFL』13号 (PDF)

2025年3月31日

- ・『JACET 関東支部紀要』12号 (PDF)

2025年3月31日

- ・『中部支部紀要』22号 (冊子)

2024年12月25日

- ・『JACET Kansai Journal』27号 (冊子)

2025年3月31日

- ・『大学英語教育学会中国・四国支部紀要』22号 (冊子) 2025年3月31日

- ・『Annual Review of English Learning and Teaching』29号 (冊子) 2024年11月30日

### 第3号事業報告：表彰事業

#### (1) 大学英語教育学会賞の表彰

第63回国際大会 (名古屋、2024) において授賞式を行う予定であったが、台風接近により授賞式を中止した。受賞者に対しては、国際大会会場において賞状と記念品を贈呈した。受賞者は以下のとおりである。

2024年度大学英語教育学会褒賞受賞者

- ・大学英語教育学会褒賞 最優秀賞

対象業績：『英文法の教え方 英語教育と理論言語学の橋渡し』 (東京：開拓社, 2023)

受賞者：川原 功司 (名古屋外国語大学)

- ・学会優秀賞、新人賞に関しては、2024年度は該当者がなかった。

### 第4号事業報告：協力事業

#### (1) 関係学術団体への派遣I (海外提携学会)

##### ① KATE (The Korea Association of Teachers of English)

2024年7月5日から6日に Ramada Plaza by Wyndham Dolsan Yeosu, Korea で開催された 2024 KATE International Conference に、本学会より本学会役員 1名が本学会代表として参加した。発表のほか、提携学会関係者との意見交換を行った。

##### ② AILA (Association Internationale de Linguistique)

### Appliquée) EBIC 派遣

2024 年 8 月 11 日に Kuala Lumpur Convention Centre, Malaysia で開催された AILA (国際応用言語学会) の EBIC business meeting に、本学会役員 1 名が本学会代表として参加した。

### ③ AILA East Asia Forum

2024 年 8 月 28 日から 30 日に愛知大学で開催された JACET 第 63 回国際大会の AILA East Asia Forum 開催学会の代表として、本学会役員 1 名がシンポジウムでの発表を行った。

### ④ MELTA (Malaysian English Language Teaching Association)

2024 年 9 月 21 日から 22 日に Universiti Malaya, Malaysia で開催された 32nd MELTA International Conference に、本学会役員 1 名が本学会代表として参加し、研究発表のほか、提携学会関係者との意見交換を行った。

### ⑤ TEFLIN (The Association for the Teaching of English as Foreign Language in Indonesia)

2024 年 10 月 23 日から 25 日に Universitas Pendidikan Indonesia, Bandung, Indonesia 開催された The 70th TEFLIN International Conference 、本学会役員 1 名が本学会代表として参加し、研究発表のほか、提携学会関係者との意見交換を行った。

### ⑥ ALAK (The Applied Linguistics Association of Korea)

2024 年 10 月 12 日に Seoul National University, Korea 開催された 2024 ALAK International Conference に、本学会役員 1 名が本学会代表として参加し、研究発表のほか、提携学会関係者との意見交換を行った。

### ⑦ ETA-ROC (English Teachers' Association of Republic of China)

2024 年 11 月 9 日から 10 日に Chien Tan Overseas Youth Activity Center, Taipei, Taiwan で開催された The 33rd International Symposium and Book Exhibit on English Language Teaching に、本学会役員 1 名が本学会代表として参加し、研究発表のほか、提携学会関係者との意見交換を行った。

### ⑧ Thai TESOL(Thailand TESOL)

2025 年 1 月 24 日から 25 日に Swissotel Bangkok Ratchada, Thailand で開催された The 44th Thailand TESOL International Conference に本学会役員 1 名が本学会代表として参加し、研究発表のほか、提携学会関係者との意見交換を行った。

### ⑨ RELC (Regional Language Centre)

2025 年 3 月 17 日から 19 日に SEAMEO Regional Language Centre, Singapore で開催された RELC 59th International Conference に本学会役員 1 名が本学会代表として参加し、研究発表のほか、提携学会関係者との意見交換を行った。

### (2) 関係学術団体への派遣II (国内提携学会)

#### ① JALT (The Japan Association for Language Teaching)

2024 年 11 月 15 日から 18 日に静岡県静岡市の静岡コンベンションアーツセンターグランシップで開催された 50th Annual Conference on Language Teaching and Learning & Education Materials Exhibition (全国語学教育学会 第 50 回年次国際大会教材展示会) に、本学会役員 1 名が本学会代表者として参加し、研究発表のほか、提携学会関係者との意見交換を行った。

### (3) 提携学会からの代表者受け入れ

#### ① JACET 63rd International Convention (名古屋、2024)

2024 年 8 月 28 日から 30 日に開催された第 63 回国際大会 (名古屋、2024) において、提携学会代表者を招聘し、提携学会代表者による研究発表が行われた。関

連学会との人的交流の促進を通じ、研究活動の国際化・高度化・活性化に貢献した。

## 第5号事業報告：調査研究事業

### (1) 専門分野別の研究会活動

42の研究会は、それぞれの分野での調査研究を基盤として、会員の資質向上、書籍出版、教材開発、紀要等での論文発表などの活動を行った。それにより、大学英語教育の発展に寄与し、会員相互の専門知識と技能の向上、会員の知見による学術の発展及び社会への還元を行った。また、各研究会の研究成果物を可能な限り公開できるように、そのための整理を行った。

### (2) JAAL in JACET（日本応用言語学会）JACET 教員と賛助会員との連携に向けた情報交換会

2024年5月30日に京都大学東京オフィスにて本学会会員と賛助会員による情報交換会を行った。議論された内容が各研究者の研究活動に大きな道標となると同時に、広く普及させることで、応用言語学研究者が促進し、発展されることが期待される。

### (3) 第5次実態調査委員会

賛助会員を対象に、教材や試験に関するデータを提供していただき、JACET が第三者的な立場から分析を行い、現在の高等教育機関の英語教育に関する教科書、教育アプリ、アセスメントなどの状況を把握することを目的とした。5社よりデータを提供していただいた。

また、第4次実態調査の設問の内容や表現を検討し、第5次実態調査用の質問紙を作成した。第4次実態調査のデータについては、データクレンジングと整備を行った。

## 第6号事業報告：その他 法人事業

### (1) 理事会の開催

2024年5月12日、6月16日、8月27日、12月15日、2025年3月16日に理事会を開催した。8月27日は愛知大学名古屋キャンパス、12月15日はちよだプラットフォームスクウェアで開催し、それ以外の日程はオンラインで開催した。この他、理事会メール審議を行った。

### (2) 定時社員総会の開催

2024年6月16日に2024年度定時社員総会をオンラインで開催した。2023年度事業報告・収支決算・監事監査報告、2024年度会員異動、2024年度事業計画、収支予算、現行規定等の報告を行った。

### (3) その他の委員会の開催

定例の各運営委員会、運営会議、支部委員会、支部役員会を適宜行った。

### (4) 会員総会の開催

例年は国際大会開催期間中に会員総会を行っているが、台風接近に伴い、法人事業委員会で検討した結果、2024年度はメーリングリスト、ウェブサイト、フォーム入力を利用した会員総会を行った。ウェブサイトに2023年度の事業報告・財務諸表、2024年度の事業計画・予算書、定款や諸規程の資料を掲載し、メーリングリストでリンク先を共有し、9月24日から9月30日までをフォームでの質問受付期間とした。会員にJACETの活動状況を周知することができた。

### (5) 社員選挙の開催

2024年10月から2025年1月にかけて、2025~2026年度大学英語教育学会社員の選挙を行った。『社員選挙規程』に則り、立候補および他薦を応募し、候補者を選出し、候補者公示の後に異議申し立て期間を設置し、社員65名と補欠20名を選出した。

(6) 『JACET 通信』の刊行

① 2024 年 8 月 31 日に『JACET 通信』220 号  
(日本語、ウェブサイト版)

② 2024 年 12 月 1 日に『JACET 通信』221 号  
(日本語、印刷版)

③ 2025 年 3 月 21 日に『JACET 通信』222 号  
(英語、ウェブサイト版)

通信を 3 回刊行し、大学英語教育関連の情報発信に寄与した。学会の最近の動向や優秀な大学英語教育を紹介することにより、会員の大学英語教員としての意識を向上させることができた。また、国内の他学会からの寄稿により、学際的な教育や研究の動向を知ることもできた。②では第 63 回国際大会の報告を行った。

2025 年 3 月 31 日

・『JACET 関東支部ニュースレター』23, 24 号

2024 年 9 月 30 日、2025 年 3 月 31 日

・『JACET Chubu Newsletter』52, 53 号

2024 年 5 月 27 日、2025 年 2 月 10 日

・『JACET Kansai Newsletter』98, 99, 100 号

2024 年 6 月 15 日、9 月 15 日、12 月 15 日

・『大学英語教育学会中国・四国支部ニュースレター』

33, 34 号

2024 年 7 月 30 日、2025 年 1 月 20 日

・『九州・沖縄支部ニュースレター』40 号

2024 年 4 月 10 日

以上

(7) 支部総会の開催

・北海道支部総会 2024 年 7 月 6 日 (北星学園大学)

・東北支部総会 2023 年 6 月 15 日 (TKP 仙台西口ビジネスセンター)

・関東支部総会 2024 年 7 月 6 日、11 月 16 日 (ともにオンライン)

・中部支部総会 2024 年 6 月 1 日、12 月 1 日 (ともに愛知大学・オンライン)

・関西支部総会 2024 年 11 月 16 日 (オンライン)

・中国・四国支部総会 2024 年 6 月 8 日 (山口県立大学)

・九州・沖縄支部総会 2024 年 9 月 28 日 (西南コミュニティーセンター)

(8) 支部ニュースレターの発行

各支部でニュースレターを発行し、支部活動動向や、支部会員への英語教育に関する情報提供と情報交換を行った。

・『JACET 北海道支部ニュースレター』38 号

2025 年 3 月 31 日

・『JACET 東北支部通信』51 号

2024（令和6）年度 収支計算書

収支計算書

令和 6年 4月 1日 から令和 7年 3月 31日 まで

(単位: 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
<b>I 事業活動収支の部</b>			
1. 事業活動収入			
①基本財産運用収入			
基本財産利息収入	8,000	3,733	4,267
②入会金収入			
入会金収入	120,000	133,000	△ 13,000
③会費収入			
一般会員会費収入	16,200,000	16,117,000	83,000
学生会員会費収入	400,000	310,000	90,000
維持会員会費収入	130,000	78,000	52,000
賛助会員会費収入	1,650,000	1,590,000	60,000
団体会員会費収入	460,000	460,000	0
終身会員会費収入	0	200,000	△ 200,000
会費収入計	18,840,000	18,755,000	85,000
④事業収入			
展示・広告収入	1,951,500	2,536,500	△ 585,000
参加費収入	8,653,500	5,225,000	3,428,500
書籍販売収入	1,035,000	677,909	357,091
雑収入	1,380,000	1,757,611	△ 377,611
事業収入計	13,020,000	10,197,020	2,822,980
⑤寄付金収入			
寄付金収入	1,000,000	0	1,000,000
⑥雑収入			
受取利息収入	1,000	3,574	△ 2,574
広告収入	729,000	212,000	517,000
雑収入	0	327	△ 327
雑収入計	730,000	215,901	514,099
事業活動収入計	33,718,000	29,304,654	4,413,346
2. 事業活動支出			
①事業費支出			
印刷製本支出	3,398,500	3,118,883	279,617
給料手当支出	2,164,166	2,169,450	△ 5,284
臨時雇賃金支出	1,749,500	997,562	751,938
賞与支出	285,834	285,834	0
旅費交通費支出	4,052,000	2,927,365	1,124,635
通信運搬費支出	1,373,594	1,049,187	324,407
消耗什器備品費支出	1,547,450	1,554,525	△ 7,075
会議費支出	2,303,200	1,580,352	722,848
保険料支出	50,000	60,020	△ 10,020
諸謝金支出	751,000	488,559	262,441
負担金支出	180,000	241,910	△ 61,910
図書研究費支出	915,000	599,652	315,348
事業費支出計	18,770,244	15,073,299	3,696,945
②管理費支出			
給料手当支出	2,543,520	2,722,800	△ 179,280
賞与支出	508,704	508,704	0
臨時雇賃金	10,000	11,050	△ 1,050
法定福利費支出	500,000	621,858	△ 121,858
会議費支出	243,000	68,812	174,188
旅費交通費支出	883,760	905,628	△ 21,868
通信運搬費支出	3,094,030	1,850,083	1,243,947
消耗什器備品費支出	1,017,200	618,836	398,364
修繕費支出	2,000	0	2,000
印刷製本費支出	790,300	375,316	414,984
支払手数料支出	993,155	1,090,100	△ 96,945
光熱水料費支出	140,000	158,602	△ 18,602
賃借料支出	2,425,940	2,354,880	71,060
諸謝金支出	80,000	39,361	40,639
租税公課支出	15,000	600	14,400
負担金支出	60,000	60,000	0
図書研究費支出	5,000	0	5,000
雑支出	202,000	322,675	△ 120,675
管理費支出計	13,513,609	11,709,305	1,804,304
③その他の支出			
法人税・住民税及び事業税	70,000	70,000	0
事業活動支出計	32,353,853	26,852,604	5,501,249
事業活動収支差額	1,364,147	2,452,050	△ 1,087,903
<b>II 投資活動収支の部</b>			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0

2. 投資活動支出			
①その他の支出			
投資活動支出計	108,000	0	108,000
投資活動収支差額	108,000	0	108,000
△ 108,000	0	△ 108,000	
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出	0	—	0
当期収支差額	1,256,147	2,452,050	△ 1,195,903
前期繰越収支差額	0	29,525,694	△ 29,525,694
次期繰越収支差額	1,256,147	31,977,744	△ 30,721,597

## 2024 (令和6) 年度 財産目録

### 財産目録

令和 7年 3月 31日 現在

(単位: 円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)				
現金				345,394
普通預金				31,616,368
定期預金				606,139
未収会費				206,956
未収金				39,000
たな卸資産				113,820
流動資産合計				32,927,677
(固定資産)				
基本財産				
定期預金				20,000,000
その他固定資産				
敷金				963,900
固定資産合計				20,963,900
資産合計				53,891,577
(流動負債)				
未払費用				693,281
未払法人税等				70,000
預り金				67,832
仮受金				5,000
流動負債合計				836,113
固定負債合計				0
負債合計				836,113
正味財産				53,055,464

## 監事監査報告書

一般社団法人 大学英語教育学会

会長(代表理事) 小田 真幸 殿

私ども監事は、一般社団法人大学英語教育学会の令和6年4月1日から令和7年3月31日までの業務について監査を実施しました。その結果について、次のとおり報告いたします。

### 1. 監査の概要

各監事は理事会に出席するほか、理事および法人の関係者から事業の執行状況について聴取し、業務について監査を実施しました。

また、当該事業年度に係る貸借対照表ならび正味財産増減計算書、およびその附属明細書について監査を実施しました。

### 2. 監査の結果

#### (1) 業務監査の結果

法人の業務について、法令、定款および規則等に従い、適正に運営されているものと認めます。

#### (2) 会計監査の結果

貸借対照表ならび正味財産増減計算書、およびその附属明細書は、法人の財産および損益の状況を正しく示しているものと認めます。

令和7年5月9日

一般社団法人 大学英語教育学会

監事

今井 隆夫

監事

野川 誠

## 支部だより

### <九州・沖縄支部>

#### 1. 支部研究大会

##### 第35回支部研究大会

日 時：2025年10月18日（土）

会 場：福岡工業大学

テーマ：「今求められる英語指導法：本質を求めて」

基調講演：山田剛史氏（関西大学）

シンポジウム：「今求められる英語指導法：本質を求めて」

発表件数：7件（うち1件はPKETA 招聘者）

参加者：73名

協賛企業：14社

#### 2. 春季学術講演会

日時：2026年3月（予定）

講師：笹島 茂 先生（CLIL 教員研修所理事長、元東洋英和女学院大学教授）

テーマ：「質的研究」に関して

#### 3. 研究会

##### 東アジア英語教育研究会

##### 第246回（5月31日／中村学園大学）

津田晶子・前嶋了二（中村学園大学）：「サステナブルツーリズムと大学英語教育」佐々木有紀（中村学園大学）：「日本語学習者とのオンライン協働学習（COIL）が教職課程に在籍する学生に与える影響について」古村由美子（名古屋外国語大学）：「穏やかな気持ちでコミュニケーションするためのプログラム：実践報告と将来のCLILとしての活用」井上奈良彦（九州大学）・上土井宏太（熊本大学）：「英語ディベート教育における正課と課外活動の連携」

#### 第247回（7月12日／福岡大学）

中谷安男（法政大学）：「英語ディスカッション指導への示唆：英語会議の発話データのコーパス分析結果から」佐々木有紀（中村学園大学）ほか：「多様な言語背景を持つ児童の日本語習得状況に関する予備調査」第248回（9月20日／福岡工業大学）中西千春（国立音楽大学）ほか：「音大生の可能性を広げる：音楽と国際性の交わり」蒲原順子（元福岡大学）：「3人の日本人児童の第二言語としての英語の統語的発達—発話コーパスを基に—」

#### 第249回（11月29日／西南学院大学東キャンパス）

伊藤彰浩（西南学院大学）：「なぜここにいるのか：教育の場における問いとキリスト教学校の使命」若芝青（西南学院大学大学院）：「英語の心理動詞と項構造の習得に関わる諸要因の考察」松下璃菜子（西南学院大学大学院）：「日本人英語学習者の英語リズム習得におけるシャドーイングの有効性」杉安慶哉（西南学院大学）：「低頻度接辞を対象とした形態認識（Morphological Awareness）の役割」須佐心（西南学院大学）：「標準英語偏重を超えて：異文化理解を促す英語教育の実践的提案」

#### 第250回記念講演会（2026年1月24日（土））（西南コミュニティーセンター 開催予定）

#### 第251回2025年2月21日（土）（福岡工業大学 開催予定）

#### 4. 支部総会・役員会・編集委員会

##### （1）支部総会

開催：2025年10月18日（第35回支部大会）

主な議題：

- ・2024年度事業報告および会計報告承認
- ・2025年度事業計画および予算案承認
- ・支部役員確認

(2) 支部役員会

開催回数: 第1回(4/26)、第2回(6/21)、第3回(8/23)、  
第4回(10/16 予定)、第5回(11/22 予定)、第6回  
(2026/2/14 予定)、第7回(2026/3/7 予定)

審議事項概要 :

第1回(4/26) : 2025年度事業計画・予算計画確認、  
春季講演会日程変更、支部大会準備・運営体制確認、  
支部紀要編集体制の共有

第2回(6/21) : 支部大会運営最終確認、PKETA派遣  
継続決定、紀要編集進捗・予算報告、ニュースレター  
のPDF化検討

第3回(8/23) : 支部大会結果報告・分析、今後の運営  
改善、予算中間報告、2026年春季講演会準備方針

(3) 支部紀要編集委員会

開催回数: 第1回(6/7)、第2回(7/12)、第3回(8/30)、  
第4回(11/8 予定)

審議事項概要 :

第1回(6/7) : 投稿論文査読割当、査読担当者決定、  
編集体制および広告募集確認

第2回(7/12) : 査読結果報告、再査読スケジュール決  
定

第3回(8/30) : 再査読結果確認、校正スケジュール確  
定、印刷業者選定

5. 支部紀要・ニュースレター

支部ニュースレター : 2025年4月発行

支部紀要第30号 : 2025年11月末刊行予定

(伊藤彰浩・西南学院大学)

<中国・四国支部>

1. 支部大会、支部講演会、研究会等の開催

(1) 春季研究大会

日時 : 2025年6月7日(土) 13:00~16:30

場所 : 就実大学

研究発表 :

1) "Student Perceptions of Pre-University English Language  
Learning: Satisfaction and Areas for Development"  
James Broxholme (Kagawa University)

2) "What We Talk About Empathy When We Talk About  
Empathy" Ian Willey (Kagawa University)

3) "A Japanese Student's IELTS Preparation Experience: A  
Case Study of an Intensive Workshop" Gerardine  
McCrohan (Kagawa University)

4) 「国際言語としての英語に対する認識の導入: 大  
学生の英語に対する意識の変化」金沢真弓(吉備  
国際大学)

5) 「CLIL型授業における英字新聞活動を通じた文法使  
用の認知的発達」岡田美鈴(宇部工業高等専門学校)

6) 「高専1年生に対する体育CLILの可能性(7)ー英語を  
使用したBaseball 5 の授業を事例としてー」二五義  
博(山口学芸大学)・伊藤耕作(宇部工業高等専門  
学校)

(2) 秋季研究大会

日時 : 2025年10月18日(土) 12:40~16:00

場所 : 香川大学(幸町キャンパス)

研究発表 :

1) 「英語科教授法の授業で見せる英語授業動画の視聴  
に対する学修者の視点と意識の関係について」藤居  
真路(広島文化学園大学)

2) "Can One Term of EFL Instruction Make a Difference to  
University Students' Willingness to Communicate?" Ian  
Willey (Kagawa University), Eleanor Carson  
(Matsuyama University), Julia Kawamoto (Ehime  
University)

- 3) 「個別最適化オンライン教材を活用した e-learningによる英語の授業の効果とその課題」中山晃（愛媛大学）
- 4) "Teaching Independent Study Skills: Content, Practice, and the Difficulty of Measurement" Hiroshi Moritani (Okayama University)
- 5) Generative AI as a Learning Partner: Effects on EFL Learners' WTC, Anxiety, and Perceived Language Competence" Takahiro Iwanaka (Yamaguchi Prefectural University)

## 2. 支部総会・支部役員会等の開催

### (1) 支部総会

日時：2025年6月7日（土）12:40～12:55

場所：就実大学

報告事項：

- 1) 2024年度支部活動報告
- 2) 2025年度支部活動計画・予算案
- 3) 2025年度支部役員人事案

### (2) 支部役員会

#### 1) 2025年度第1回支部役員会

日時：2025年6月7日（土）11:00～12:00

場所：就実大学

報告：

- ① 2024年度支部事業報告
  - ② 2025年度の国際大会について（早稲田大学で実施）
  - ③ 支部紀要について
- 議題：
- ① 2025年度支部事業計画・予算案
  - ② 2025年度支部人事案
  - ③ 2025年度事業計画
  - ④ 支部紀要について
  - ⑤ 研究企画委員の推薦依頼
  - ⑥ 2026年度以降の国際大会実施場所について

### 2) 2025年度第2回支部役員会

日時：2025年10月18日（土）11:00～12:00

場所：香川大学（幸町キャンパス）

報告：

- ① 理事会報告

議題：

- ① 2025年度支部事業計画
- ② 2026年度支部事業計画・予算案
- ③ 2026年度支部人事案
- ④ 顧問および名誉会員の推薦について
- ⑤ 紀要編集委員会からの提案

## 3. その他

### (1) 支部紀要の発行

『大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要』第23号

発行日：2026年3月31日（予定）

### (2) 支部ニュースレターの発行

『JACET中国・四国支部 Newsletter』第35号

発行日：7月31日刊行済み

『JACET中国・四国支部 Newsletter』第36号

発行日：1月20日（予定）

（寺嶋健史・松山大学）

## ＜関西支部＞

### 1. 支部大会、支部講演会、研究会などの開催

#### (1) 支部大会

日時：2026年3月7日（土）

場所：大阪成蹊大学駅前キャンパス（対面開催）

大会テーマ：AI時代に求められる英語力－実践と評価

基調講演1：安藤昇氏（プログラマー）

基調講演2：日野信行先生（大阪大学名誉教授・追手門学院大学教授）

(2) 支部例会

1 2025 年度第 1 回支部講演会

日時:2025 年 6 月 21 日(土)15:30~17:00 (オンライン開催)

講演:「言語学の研究成果をどう英語教育に活かすか? コーパス言語学・心理言語学からの展望」

第 1 発表 石川慎一郎 先生 (神戸大学教授)

第 2 発表 門田修平 先生 (関西学院大学名誉教授)

2 2025 年度第 2 回支部講演会

日時:2025 年 10 月 18 日(土)15:30~17:00 (オンライン開催)

教材研究会企画

講演:「私はどのように英語教材を作ってきたか」

投野 由紀夫 先生 (東京外国语大学大学院教授)

3 2025 年度第 3 回支部講演会

日時:2026 年 2 月 21 日(土)(予定)

関西支部 リスニング 研究会企画

**2. 支部総会・支部役員会等の開催**

(1) 支部総会

日時:2025 年 11 月 15 日(土)(予定)

場所:オンライン開催

報告事項

1) 支部長報告

2) 研究企画委員会報告

3) 紀要編集委員会報告

4) その他

(2) 支部役員会

1 2025 年度第 1 回支部役員会

日時:2025 年 6 月 21 日(土)(オンライン開催)

報告事項

1) 支部長報告(支部長: 石川)

2) 副支部長報告・編集委員長報告 (副支部長: 松田・

副支部長・編集委員長: 山中)

3) 研究企画委員会報告(研究企画委員長: 萩田)

4) 2025 年度事業計画について(総務幹事: 山岡)

5) 2024 年度予算実績および 2025 年度予算について(財務幹事: 野田)

6) 2025 年度人事について(総務幹事: 山岡)

審議事項

1) 2026 年度国際大会の引き受けについて(支部長: 石川)

2) JACET 関西紀要の投稿要領の変更について(支部長: 石川)

3) 年間事業計画案の変更について(総務幹事: 山岡)

2 2025 年度第 2 回支部役員会

日時:2025 年 10 月 18 日(土) (オンライン開催)

報告事項

1) 支部長報告(支部長: 石川)

2) 副支部長報告・編集委員長報告 (副支部長: 松田・山中)

3) 研究企画委員会報告(研究企画委員長: 萩田)

4) その他

審議事項

1) 2007 年制定の SIG 運営内規の改正について(支部長: 石川)

2) 2026 年度支部役員就任候補者の承認について(支部長: 石川)

3) 2026 年度研究企画委員長候補者の承認について(支部長: 石川)

4) 2026 年度事業計画について(総務幹事: 山岡)

5) 2026 年度予算について(財務幹事: 野田)

6) 2026 年度人事について(総務幹事: 山岡)

7) 支部運営要領、幹事・研究企画委員選出細則、支部長選出規定等の改正について(支部長: 石川)

8) 「学生優秀発表賞」の制定について(支部長: 石川)

3 2025 年度第3 回支部役員会  
日時:2026 年3 月 7 日(土)(予定)  
場所:大阪成蹊大学駅前キャンパス(対面開催)

### 3. その他

- (1) 支部紀要の発行  
『JACET 関西紀要』第28 号  
発行日:2026 年3 月 31 日(予定)  
(2) 支部ニュースレターの発行  
1) JACET Kansai Newsletter No. 101  
発行日:2025 年7 月 1 日  
2) JACET Kansai Newsletter No. 102  
発行日:2025 年9 月 15 日  
3) JACET Kansai Newsletter No. 103  
発行日:2025 年12 月 15 日(予定)

(山岡華菜子・龍谷大学)

### <中部支部>

1. 支部大会、支部講演会、研究会等の開催  
(1) 2025 年度 JACET 中部支部大会  
日時: 2024 年6 月 7 日 (土) 10:00~17:00  
場所: 愛知大学 名古屋校舎(一部オンライン配信有)  
テーマ: Instructed Second Language Acquisition: 教室で  
何ができるか  
シンポジウム・講演  
基調講演 鈴木祐一先生(早稲田大学)  
ISLA 研究の知見を活かした英語授業デザイン: 3 つの視点から  
講演 2  
鈴木涉先生(宮城教育大学)  
第二言語習得研究の理論と実践—中・高等学校の教室から—  
講演 3  
鈴木駿吾先生(名古屋大学)

- 対話システムを用いた英語スピーキング練習プログ  
ラム  
コーディネーター: 藤原 康弘(名城大学)  
(2) 支部研究会・講演会  
① 2024 年度 第1 回定例研究会  
日時: 2024 年11 月 30 日 (日)  
場所: 愛知大学(一部オンライン配信有)  
基調講演 柴田美紀先生(広島大学)  
研究会ワークショップ【日英インタラクション研究会】  
ほか  
② 2024 年度 第2 回定例研究会 (予定)  
日時: 2025 年3 月 7 日 (土)  
場所: 愛知大学  
研究会研究発表【授業学研究会】ほか  
2. 支部総会・支部役員会等の開催  
(1) 支部総会  
① 第1 回支部総会  
日時: 2024 年6 月 7 日 (土)  
場所: 愛知大学 名古屋校舎  
議題: 2024 年度事業報告・会計報告、2025 年度事業  
計画について、2025 年度予算について、2025 年度人  
事案について  
② 第2 回支部総会  
日時: 2024 年11 月 30 日 (日)  
場所: 愛知大学 名古屋校舎(オンライン同時配信)  
議題: 人事案審議、予算案審議、事業案審議  
(2) 支部役員会  
① 第1 回役員会  
日時: 2025 年4 月 20 日 (月) 20:00~21:00  
場所: 名城大学  
議題: 理事会報告、事務局報告、支部会計報告につい  
て、若手研究者支援事業について等  
② 第2 回役員会  
日時: 2025 年5 月 19 日 (月) 20:00~21:00  
場所: オンライン開催  
議題: 理事会報告、事務局報告(ニュースレター)、

支部会計報告、ホームページ（広報）について、支部大会について、支部総会について、若手研究者支援事業について等

③ 第3回役員会

日時：2025年6月7日（月）20:00～21:00

場所：名城大学 議題：理事会報告、事務局報告（ニュースレター）、支部会計報告、ホームページ（広報）について、若手研究者支援事業について等

④ 第4回役員会

日時：2025年7月14日（月）20:00～21:05

場所：オンライン開催

議題：理事会報告、事務局報告（ニュースレター）、支部会計報告、ホームページ（広報）について、紀要発行について、第一回定例研究会について、紀要の電子化について等

⑤ 第5回役員会

日時：2025年10月20日（月）20:00

場所：オンライン開催

議題：理事会報告、事務局報告（ニュースレター）、支部会計報告、ホームページ（広報）について、第一回、第二回定例研究会について、紀要について、新規研究企画委員について、顧問・名誉会員の推薦について、若手研究者支援事業について、次年度事業計画について等

⑥ 第6回役員会

日時：2025年11月30日（月）20:00

場所：愛知大学

議題：理事会報告、事務局報告（ニュースレター）、支部会計報告、ホームページ（広報）について、支部総会について等

⑦ 第7回役員会（予定）

日時：2026年1月19日（月）20:00（予定）

場所：オンライン開催

議題：未定

⑧ 第8回役員会（予定）

日時：2026年1月19日（月）20:00（予定）

場所：オンライン開催

議題：未定

3. その他

(1) 支部紀要の発行

『JACET 中部支部紀要』第22号  
発行日：2025年12月25日（予定）

(2) 支部ニュースレターの発行

JACET-Chubu Newsletter No. 51  
発行日：2025年5月10日

JACET-Chubu Newsletter No. 52

発行日：2025年12月25日（予定）

（藤村敬次・愛知工業大学）

＜関東支部＞

1. 支部大会、支部講演会、研究会等の開催

(1) 2025年度支部大会

非開催

(2) 支部講演会

① 第1回講演会

日時：2025年6月21日（土）16:00～17:20

場所：Zoom を用いたオンラインでの開催

講演者：渡辺敦子（文教大学）

題目：リフレクションとは：その変化と発展

② 第2回講演会

日時：2025年10月4日（土）16:00～17:20

場所：Zoom を用いたオンラインでの開催

講演者：藤田恵里子（日本大学）

題目：“できる気がする”を科学する—自己効力感の見える化—

③ 第3回講演会（予定）

日時：2025年12月13日（土）

場所：Zoom を用いたオンラインでの開催

講演者：山内豊（創価大学）

題目：生成AIを活用した英文エッセイと英文スピーチの評価研究の現状と課題

(3)講演会・ワークショップ (JACET関東支部企画)

日時：2025年11月8日（土）14:30～15:50

場所：Zoomを用いたオンラインでの開催

講演者：藤原康弘（名城大学）城座沙蘭（国際基督教大学）

題目：国際英語時代における英語教員養成の再設計：授業実践と全国カリキュラム調査

(Re-envisioning English Teacher Education in the Era of Global Englishes: Classroom Practice and a Curriculum Survey)

※講演会等の詳細は、支部会員MLにて配信及び関東支部HP上に掲載されます。

## 2. 支部総会・支部役員会等の開催

### (1) 支部総会

#### ①第1・2回合同支部総会

日時：2025年11月8日（土）14:00～14:30

場所：Zoomを用いたオンラインでの開催

議題：2024年度事業報告・会計報告、2025年度事業計画、2026年度支部事業計画・予算、2026年度人事等

### (2) 支部役員会

#### ①第1回支部運営会議

日時：2025年4月12日（土）13:00～14:00

場所：オンライン会議

議題：

1. 理事会報告
2. 支部大会について
3. 支部講演会について
4. 財務委員会報告

5. 支部紀要編集委員会報告

6. 支部ニュースレター委員会報告

#### ②第2回支部運営会議

日時：2025年5月10日（土）13:00～13:15

場所：オンライン会議

議題：

1. 国際大会での関東支部企画実施の有無について
2. 理事会報告
3. 支部大会運営委員会について
4. 支部講演会について

#### ③第3回支部運営会議

日時：2025年6月14日（土）13:00～14:00

場所：オンライン会議

議題：

1. JACET関東支部紀要校正作業の外注について
2. 理事会報告
3. 支部大会運営委員会について
4. 支部講演会について

#### ④第4回支部運営会議

日時：2025年9月13日（土）13:00～14:00

場所：オンライン会議

議題：

1. 理事会報告
2. 支部大会運営委員会報告
3. 支部講演会委員会報告

#### ⑤第5回支部運営会議

日時：2025年10月11日（土）13:00～14:00

場所：オンライン会議

議題：

1. 各委員会の来年度の運営方針について
2. 理事会報告
3. 支部大会運営委員会報告

4. 支部講演会委員会報告
5. 支部紀要編集委員会報告

⑥2025 年度支部運営会議（予定）

第6回 11月8日（土）13:00～14:00

第7回 12月13日（土）13:00～14:00

第8回 2026年1月10日（土）13:00～14:00

第9回 2026年3月7日（土）13:00～14:00

### 3. その他

#### (1) 支部紀要の発行

『JACET 関東支部紀要』第12号（英語名：JACET-KANTO Journal Vol. 12）

発行日：2025年3月31日

『JACET 関東支部紀要』第13号（英語名：JACET-KANTO Journal Vol. 13）（予定）

発行日：2026年3月31日

#### (2) 支部ニュースレターの発行

『JACET 関東支部ニュースレター』第24号

発行日：2025年3月31日

『JACET 関東支部ニュースレター』第25号

発行日：2025年9月30日

『JACET 関東支部ニュースレター』第26号（予定）

発行日：2026年3月31日

（佐竹由帆・青山学院大学）

## <東北支部>

### 1. 支部大会、支部講演会、研究会等の開催

#### (1) 支部大会

日時：2025年6月14日（土）11:00～12:30

場所：TKP 仙台西口ビジネスセンター

ラウンドテーブルミーティング「AI 時代の英語教師力」モデレーター 久保田佳克（東北福祉大）

- 1) 「これからの中学校で求められる英語教師力とは」  
久保田佳克（東北福祉大）
- 2) 「AI 時代に求められる新しいネイティブスピーカー教師力」 Timothy Phelan（宮城学院女子大）
- 3) 「地方国立大の英語教育—高大連携の現状とこれから」 嶋山研（秋田大）
- 4) 「再履修クラスに必要な教師力とは？」 片桐早苗（弘前大）
- 5) 「大学生向けエッセイライティングの授業」 富田かおる（東京理科大）

#### (2) 支部例会

日時：2025年12月6日（土）14:00～17:00（予定）

場所：TKP 仙台西口ビジネスセンター

座談会

1) 「宮城大学における多読実践とその検証」

金井典子（宮城大） 小島さつき（宮城大）

2) 「多読学習の効果：脳血流と発表語彙習得からの検証」 千葉克裕（文教大）

### 2. 支部総会・支部役員会等の開催

#### (1) 支部総会

日時：2025年6月14日（土）10:00～11:00

場所：TKP 仙台西口ビジネスセンター

#### (2) 支部役員会

##### ① 第1回役員会

日時：2025年4月12日（土）10:00～12:00

場所：TKP 仙台西口ビジネスセンター

##### ② 第2回役員会

日時：2025年6月14日（土）10:00～11:00（支部総会を兼ねて開催）

場所：TKP 仙台西口ビジネスセンター

##### ③ 第3回役員会

日時：2025年10月25日（土）～10月31日（金）

場所：メール審議

#### ④第4回役員会

日時：2025年12月6日（土）13:00～14:00（予定）

場所：TKP仙台西口ビジネスセンター

### 3. その他

#### (1) 支部紀要の発行（予定）

TOHOKUTEFL（『JACET 東北支部紀要』 Vol. 14

発行日：2026年3月31日

#### (2) 支部ニュースレターの発行（予定）

『JACET 東北支部通信（JACET Tohoku Newsletter）』

No. 52

発行日：2026年3月31日

（畠山研・秋田大学）

## ＜北海道支部＞

### 1. 支部大会、支部講演会、研究会等の開催

#### (1) 支部大会

2025年度支部大会

日時：2025年7月5日（土）13:00～16:55

場所：北海学園大学

基調講演：

「インバウンド対応と英語コミュニケーション」藤田玲子（成蹊大学）

シンポジウム：

「大学英語教育とインバウンド対応力 一実社会につながる英語力の育成」コーディネーター：森越京子（北星学園大学短期大学部）助言者：藤田玲子（成蹊大学）シンポジスト：森越京子・陳 樂樂（Athene Lele CHEN）（インターラーニング・インターナショナルホタル札幌）

研究発表：

1) 「AIを活用した英語教育の革新：教師による実践と自作アプリの活用事例」江口均（北星学園大学）

2) 「生成AIを活用した自由進度文法指導の実践—定期制高校における個別最適化と協働的学びのバランス」横倉悠人（北海道北見北斗高等学校）

#### (2) 支部例会

##### ①2025年度第1回研究会（予定）

日時：2025年11月16日（日）14:30～15:45

場所：藤女子大学

研究発表

1) 「リスニング授業におけるメタ認知指導：自己調整能力のある英語学習者を育む実践的な指導の提案」中島優子（北海道武蔵女子短期大学）

2) 「国境を越えたガイドィング実践：日本・タイ学生による英語を用いた国際交流を通じた協働学習」田中直子（北星学園大学短期大学部）

②2025年度第2回研究会（北海道英語教育学会および日本コミュニケーション学会北海道支部との共催）（予定）

日時：2026年3月8日（日）13:00～17:40

場所：北海学園大学

研究発表：未定

### 2. 支部総会・支部役員会等の開催

#### (1) 支部総会

日時：2025年7月5日（土）12:20～12:50

場所：北海学園大学

議題：

- 1) 支部長報告
- 2) 2024年度事業報告
- 3) 2025年度事業計画
- 4) 2025年度人事

5) 各種委員会報告

6) 2026 年度事業計画案

7) 2026 年度人事案

8) その他

(2) 支部役員会

①2025 年度第 1 回役員会

日時 : 2025 年 5 月 31 日 (土) : 10:00~

場所 : 北海学園大学

議題 :

1) 支部長報告・理事会報告

2) 事務局幹事報告

3) 会計幹事報告

4) 2025 年度役割分担と 2025 年度～2026 年度の人事について

5) 2025 年度支部大会 (案) について

6) 2025 年度支部総会 (案) について

7) 2025 年度支部研究会(第1回、第2回)について

8) 2025 年度第 2 回役員会の日時について

9) 2026 年度支部大会・研究会等 (日程・会場) について

10) その他

②2024 年度第 2 回役員会

日時 : 2025 年 7 月 5 日 (土) 10:30~

場所 : 北海学園大学

議題 :

1) 支部長報告・理事会報告

2) 事務局幹事報告

3) 会計幹事報告

4) 2025 年度第 1 回支部研究会 (案) について

5) 2025 年度第 3 回支部役員会について

6) 2026 年度支部大会 (案) について

7) 支部大会・研究会の講演者等の旅費・謝金等についての申し合わせ事項修正案について

8) JACET 北海道支部 HP に関する提案について

9) その他

③2025 年度第 3 回役員会 (予定)

日時 : 2025 年 11 月 16 日 (日) 13:00~

場所 : 藤女子大学

議題 : 未定

### 3. その他

(1) 支部紀要の発行 (予定)

Research Bulletin of English Teaching, No. 22

発行日 : 2026 年 3 月末 (J-STAGE および支部ホームページを通じて公開)

(2) 2025 年度支部ニュースレターの発行 (予定)

『JACET 北海道支部ニュースレター』第 39 号

発行日 : 2026 年 3 月末 (支部ホームページで公開)

(高橋博・藤女子大学)

## 訃報

国内名誉会員 名本幹雄先生

2024年9月18日にご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

### 【名本幹雄先生役員履歴等】

国内名誉会員（ご退会 2013/03/31）

評議員 1990/04/01-1996/03/31

理事 1996/04/01-2001/03/31

支部長（九州・沖縄支部） 1997/04/01-2001/03/31

顧問 2001/04/01-2013/3/31

### 編集：法人事業委員会（『JACET 通信』担当）

理事（筆頭） 馬場千秋・帝京科学大学

理事・副委員長 岩中貴裕・山口県立大学

理事・副委員長 鈴木彩子・玉川大学

理事 金丸敏幸・京都大学

理事 下山幸成・東洋学園大学

委員長 森本俊・玉川大学

高橋博・藤女子大学

畠山研・秋田大学

佐竹由帆・青山学院大学

藤村敬次・愛知工業大学

山岡華菜子・龍谷大学

寺嶋健司・松山大学

伊藤彰浩・西南学院大学

### 編集後記

『JACET 通信』224号をお届けいたします。お忙しい中、ご寄稿いただきました先生方には心より御礼申し上げます。

日々の業務に忙殺されてなかなか研究時間が取れない先生方が多いのではないかでしょうか。忙しい時こそ学会へ行きましょう。学会へ行けば仲間に会えます。そこで得られる刺激は、日常業務では得られない貴重な財産です。新しい発見や刺激が、日々の教育や研究に必ず活かされます。

(岩中)

### 『JACET 通信』第224号

2025年12月1日発行

発行者 一般社団法人 大学英語教育学会（JACET）

代表者 佐藤 雄大

発行所 〒162-0831 東京都新宿区横寺町55

電話(03)3268-9686 FAX(03)3268-9695

<https://www.jacet.org/>